

2022. 1. 16 (日) マタイ28:1~6

28:1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。

28:2 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。

28:3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。

28:4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

28:5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。

28:6 ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。

<説教>

アドヴェント、クリスマスを含んで再びマタイの福音書(28章、最終章)に戻ります。

27章の終わりの部分には、イエスの敵、イエスを十字架につけて殺すことに成功したユダヤの祭司長たち、パリサイ人たちがローマ総督ピラトの所に行って、イエスが葬られた墓に見張りをつけてくれるように頼んだこと、その願いを受けてピラトが番兵をつけてやったことが記されていました。(27:62-66)

その日は、イエスが十字架につけられ死なれた金曜日の〈明くる日、すなわち、備えの日の翌日〉(27:62)つまり、土曜日、安息日でした。

その、〈安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行〉きました。(28:1)

この〈マグダラのマリアともう一人のマリア〉は、十字架のイエスを遠くから見ていた大勢の女性たちの中にいた人たちでした。(27:55-56)

マルコヤルカの福音書によると、彼女たちが香料を用意してイエスに油を塗るために墓に行ったことが書かれていますが、マタイは香料のことには触れず、〈墓を見に行〉と記しています。

しかし彼女たちが見たのは、〈墓〉は墓でも入り口の石が〈わきに転が〉された墓であり、〈納められていた場所〉にイエスがいない、「空の墓」でした。

そして彼女たちは〈主の使い〉をも見ました(28:2-3)。

その〈御使い〉が彼女たちに告げ知らせたように、〈十字架につけられたイエス〉はイエスご自身が〈前から言っておられたとおりに、よみがえられたのです〉。(28:5-6)

〈主の使い〉が〈天から降りて来て〉現れたことで、このイエスのよみがえりには神が関係していたことがわかります。

イエスは、死の力よりも強い神の力によって〈よみがえられた(直訳:よみがえらされた)〉のです。

〈主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったから〉〈大きな地震が起こった〉と書かれています。

イエスが十字架で死なれたときも〈地が揺れ動き〉ましたが、イエスが墓の中でよみが

えられたときにも〈大きな地震が起こった〉のです。

〈主の使い〉の〈姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった〉とありますが、それはかつて山の上で〈顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった〉(17:2)イエスの姿を思い起こさせます。

このときの〈主の使い〉はよみがえりの主イエスの栄光を現していたのでしょう。

「主役」はイエスをよみがえらせた天の父なる神であり、ご自身神の力をもってよみがえられた主イエスでした。

〈主の使い〉に〈石をわきに転がし〉てもらわなければイエスは墓の中から外に出ることができなかったということではありません。

〈主の使い〉はただ神のしもべとして、神から命じられたことをしただけでした。

三日前に、十字架のイエスを見張っていた〈百人隊長〉たちは〈非常に恐れて〉〈「この方は本当に神の子であった」〉と言いましたが(27:54)、イエスの墓を見張っていた〈番兵たち〉は〈主の使い〉の姿の〈その恐ろしさに震え上がり、死人のようになった〉のでした。

イエスの遺体を盗み出そうとしてイエスの弟子たちがやって来ても追い返し、イエスを〈死人〉のまま墓の中に閉じ込めておくために〈番兵たち〉はピラトによって遣わされたはずでした。

しかし、イエスはよみがえって墓から出て行くし、天の神から遣わされた御使いの栄光の姿を見た彼ら〈番兵たち〉の方が〈死人のようになった〉とは何とも皮肉なことでした。

知恵を尽くし、力を尽くして人間が神の御意思と御業の成ることを妨害しようとしたのですが、そんな人間の考えや力を打ち破って神の御意思と力ある御業が行われたのです。

さて〈番兵たち〉は〈恐ろしさに〉〈震え上がり、死人のようになった〉のですが、〈マグダラのマリアともう一人のマリア〉にはその必要はありません。

「あなたがたは、恐れることはありません。」と御使いは彼女たちに言いました。

「恐れることはありません。」とは、マリアの身ごもりを知ったヨセフに御使いが言った言葉であり、野宿で夜番をしていた羊飼いたちに御使いが言った言葉でもありました。

イエスの降誕のときに、またイエスのよみがえりのときに御使いから同じ言葉が人間に語りかけられたのです。

それらはどちらも神の手による、神の力による、神から来る〈大きな喜びのしらせ〉でした。

彼女たちは〈十字架につけられたイエスを捜してい〉たのですから、このとき〈御使い〉の言葉がなければ、イエスを見つけることが出来ずに〈恐れる〉ことにもなったでしょう。

イエスがよみがえられたのはいつなるとき、これこれこんな様子で、そしてこんなふうにして墓から出て行きましたなどという説明を御使いはしませんでした。

ただ、「ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。」とだけ言いました。

「前から言っておられたとおり」と御使いは言いました。

それは、イエスがお語りになったみことばを再び思い起こしなさい、ということであり、また思い起こすだけでなく、そのみことばを信じていなかったことを認めて、悔い改めて、信じなさいということでしょう。

そしてイエスご自身が繰り返し予告しておられたみことばのとおりのが起こったのです、神がそれを起こされたのですと「事実」を伝えたのです。

彼女たちとしては、イエスが葬られて「いる」〈墓を見に〉来たのですが、〈納められていた場所〉にはイエスは 〈おられ〉ず、イエスが 〈おられ〉ない墓を見たのでした。

今日、私たちに語りかけられている言葉も、イエスが 〈前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。〉 という力強い神のみことばであり、それで充分なのです。

「あなたがたのためにイエスは〈前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。〉」という神の呼びかけに対して、ただ信仰によって応答することが今日も私たちのなすべきことなのです。